

新入生セミナー，その内容と評価

教務委員会初年次科目WG 特別支援教育講座 立入 哉

教務委員会初年次科目WGでは新入生に必要な授業内容の充実をめざし内容の精選を行ってきた。今年度は特に新入生同士が小集団を作り，コミュニケーション・プレイ，学内ウォーク，プレゼン実施などを行うことを通して，入学時に必要な情報と知識，さらに初めて知り合う集団で一つの目的を達成するために，人間関係を築ける技能を養えることができる内容を用意した。

次に各内容とそれぞれに対する学生の評価を過去2年間の結果と共に図1に示した。

これによると，コミュニケーション・プレイ，マナー講座，プレゼン講義，レポートを書く，観察実習等といった内容の評価が高いことがわかる。

特に，今年度から初めて取り組んだ「観察実習」の評価が高く、実際に授業を見ること、その授業を細かく記録することから、授業の見方を臨床的に身につける時間群は教育学部の教員養成体系からの観点としても、重要かつ必要である内容と思われた。

なお，生活安全・防衛の評価が低いのは，同様の内容が複数回設定されているためであり，次年度には重複が起らないよう計画したい。

それ以外の内容については，「満足(1)」から「大いに満足(2)」の評価を得ており，おおむね新入生のニーズに即した内容を提供できたと考えている。

自由記述欄に見られた記述のいくつかを紹介する。

- ・4月14日の内容は入学式後にも聞いた話で意味がなかった。
- ・「レポートの書き方」は役に立った。
- ・同じ学部でもコースが違くと話す機会がないのでコミュニケーションプレイは良かった。

・学内ウォークラリーは実施時期をもう少し早くすべきでは？

・最後のプレゼンの機会はもう少し早めにやって欲しいです

・授業の時間の中でプレゼンを制作する時間が欲しかった

・「ノートの取り方」の内容も聞きたかった

今後の課題

今年度，観察実習の時間群を設けたことから、従来の「レポートを書こう」の内容を行うことができなかった。昨年はレポート指導として、学部全体で統一したテーマを与え、unit担当教員に添削をして学生に返却をすることをお願いしたが、指導のポイントまたは深さなど担当教員によって様々であり、「新入生セミナー」としての質を一定に保つことが困難であるという理由もあり、今年度、内容から削除した。しかし、他にそうしたレポートの書き方、論文の書き方などを小人数指導で取り扱える授業がないことから、実施方法を検討を要するが、内容の復活を希求したい。

一方で、中学校の観察実習に参加した学生に指導不十分な学生がいたことが附属中学校から指摘された。翌年度は、生涯学習群の学生についても、観察実習の事前指導に参加するよう実施形態を改める必要がある。

新入生セミナーは新入生にとっては「学部を見ることができる」最初の機会であり、「学びの手段」を得ることができる最初の機会でもある。また、「教育学部生」としてのアイデンティティ形成の場でもある。今後も、そうした目的に合った内容編成に向けて、作業を行うことが必要であろう。

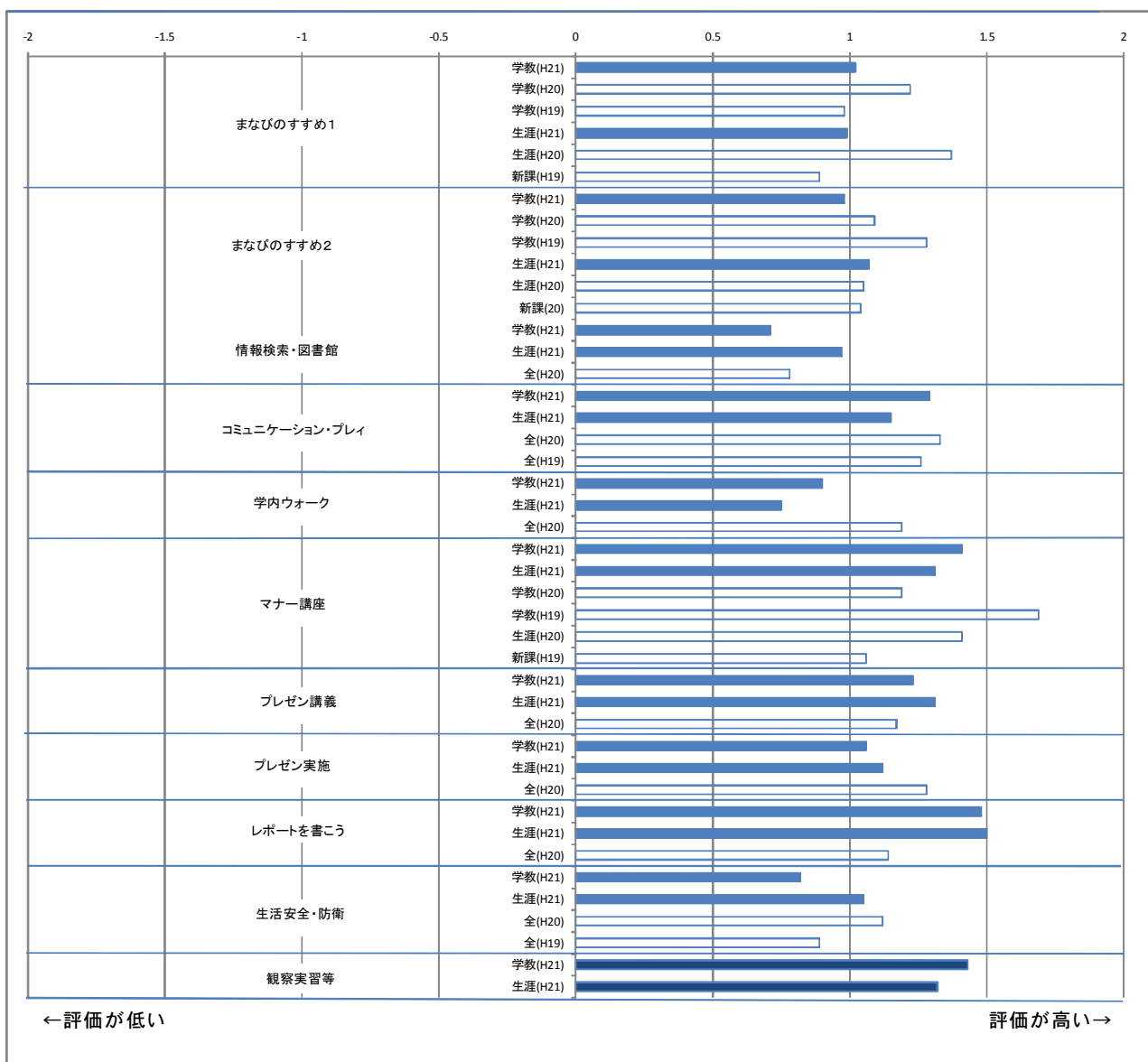


図 1 : 新入生セミナーの各内容別の評価

謝辞

今回の新入生セミナーは、教務委員会初年次科目WGの先生方により計画され、また各専修・コースから選出された新入生セミナー実施委員、加えて unit 担当教員、さらにそれぞれの内容に関して卓越した知識をお持ちの外部講師の先生方といった多くの先生に支えられて実施できたことをここで深くお礼申し上げます。

また、日本経済新聞（2010年2月15日）において、全国の約 2000 大学・学部を対象とした初年次科目に関する調査において、優秀なプログラムを実施している 16 大学・学部とて、

愛媛大学教育学部の新入生セミナーが実地調査の対象となった。その結果、評価項目順に「aacca」と、トリプル a の高い評価を受け、回答があった全国 1092 大学・学部のうち、第 16 位の評価を受けた。

特に学部教員の多くが何かしらの形で関与していること、少人数での work が科せられていること、プレゼンなど共同作業の機会が確保されていることが認められたと考えている。